

# 学級の規範意識が中学生の学校内逸脱行動に及ぼす影響

人間発達教育専攻  
臨床心理学コース  
M 1 1 0 7 2 E  
吉 田 由 貴

学校教育の目的は、知識の伝達にとどまらず、子どもたち一人一人の人間形成を図ることである（文部科学省，2011）。

しかし、学校内における逸脱行動が、知識の伝達機会を失わせ、人間形成を阻害している。なかでも、中学校における学校内の逸脱行動は深刻な問題である。全中学校の約4割で学校内暴力行為が発生し、授業中の立ち歩きや私語、居眠りといった逸脱行動も、大きな問題となっている（文部科学省，2010；総務庁，2000）。

暴力行為や授業中の立ち歩きや私語など、学校内の逸脱行動に大きな影響を与えているものの一つに、学級集団の規範意識がある。学級集団の規範意識は、構成員の認知や態度、及び行動に斉一性を生じさせると言われており（根本，1987）、学級全体の規範意識の向上は、一人一人の生徒や集団の成長を促し（文部科学省，2012）、学級における規範の定着は、学力にも影響を及ぼすことが報告されている（伊藤，2010）。

規範意識と逸脱行動の関連に注目した研究は、重篤な逸脱行動かまたは、授業中に限定したものが多く、中学校における学校生活で発生する逸脱行動全般と、規範意識との関連に着目したものはほとんど見られない（金子，2011）。

これまでの学校内における逸脱行動の研究には、以下のような問題点が挙げられる。(a)横断調査によってほとんどの研究が行われており、因果関係の特定には至っていない点、(b)集団の

規範意識を測る場合に、各個人の規範意識を合算して集団の規範意識としており、集団自身の規範意識とは乖離している可能性がある点、(c)集団データと個人データのように互いに独立でないデータの関係性を無視して分析を行っている点である。以上を踏まえて、本研究では、縦断データを用いて、学級を評定の対象として規範意識を測り、集団と個人のデータを同時に扱うのに適したマルチレベルモデルを用いた分析によって、学級の規範意識が中学校における学校内の逸脱行動に対して及ぼす影響を分析する。

## 方 法

**調査対象** 公立A中学校の16学級（1年生4学級，2年生6学級，3年生6学級629名）を対象に、質問紙調査を実施した。調査は2回行い、1回目は2011年12月に、2回目は2012年3月に実施した。2回の調査ともに回答し欠損回答のなかった432名を分析の対象とした。A中学校は、就学支援（生活保護・準要保護）家庭が約4割を占める、大都市近郊に位置する学校である。

**従属変数** 逸脱行動・問題行動26項目（授業中に寝る、友達をいじめたり仲間はずれにした、先生に暴力をふるったなど）を4件法で回答を求めた。尺度得点の分布に偏りが見られ正規性を仮定できなかつたため、逸脱行動の有無によって2群にわけた。

**独立変数** 規範意識10項目（クラスの中に

授業の邪魔をする人がいる、クラスの人は決められた仕事や当番をきちんとするなどを、5件法で回答を求めた。

**統制変数** 性別、第1回調査時の逸脱行動、担任教師への愛着、親への愛着、コミットメント、ストレイン、不良交友、学級適応感、学校適応感、学業成績を統制変数として用いた。

**解析手法** マルチレベルモデルによる分析を行った。数理モデルは以下の通りである。

レベル1 (個人レベル)

$$\log \left( \frac{P_{ij}}{1-P_{ij}} \right) = \beta_{0j} + \beta_{1j} (\text{個人の規範意識})_{ij} + \beta_{2j} (\text{性別ダミー})_{ij} + \sum_3^m \beta_{kj} (\text{統制変数})_{ij} \quad (1)$$

レベル2 (学級レベル)

$$\beta_{0j} = \gamma_{00} + \gamma_{01} (\text{学級の規範意識})_j + u_{0j} \quad (2)$$

$$\beta_{1j} = \gamma_{10} + \gamma_{11} (\text{学級の規範意識})_j + u_{1j} \quad (3)$$

## 結果

Table1に2回の調査における、各変数の記述統計量とクロンバックの $\alpha$ による信頼性係数を示した。Table2には、最も適合度のよいモデルを含む四つのモデルの結果を示した。

学校内の逸脱行動に対して影響を与える変数は、学級の規範意識と個人の規範意識、及び以前の逸脱行動と不良交友であり、このうち学級の規範意識は正で有意、個人の規範意識は負で有意であった。逸脱行動に対する学級と個人の規範意識の関係をFigure1に示した。

## 考察

中学生の学校内における逸脱行動は、学級の規範意識の影響を受けることが確認された。しかし、学級の規範意識が高いクラスの生徒ほど逸脱行動が多いという結果になっており、予

想とは反対の結果であった。これは、学級の規範意識の高いクラスの中には、ずれを感じる生徒が存在し、そこに逸脱行動が生起すると考えられる。学級の規範意識が、強制されたものではなく、生徒たち自らが守ろうとするものであれば、逸脱行動は減少するのではなかろうか。

Table 1  
記述統計量 (N=432)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	信頼性係数 <sup>(1)</sup>
第1回調査(12月)					
学校内逸脱行動	32.12	8.44	26.00	66.00	.85
学級の規範意識	33.52	5.12	16.00	47.00	.86
担任教師への愛着	36.70	9.27	11.00	55.00	.93
学級適応感	55.88	9.42	30.00	75.00	.87
コミットメント	11.74	2.16	3.00	15.00	.81
ストレイン	6.31	1.68	2.00	10.00	.59
不良交友	5.02	2.23	3.00	12.00	.57
親への愛着	20.80	5.04	6.00	30.00	.82
学校適応感 <sup>(2)</sup>	3.44	1.18	1.00	5.00	---
学業成績 <sup>(2)</sup>	3.31	1.13	1.00	5.00	---
第2回調査(3月)					
学校内逸脱行動	31.63	8.60	26.00	75.00	.86
学級の規範意識	33.35	5.35	15.00	48.00	.72
担任教師への愛着	35.62	9.28	11.00	55.00	.93
学級適応感	54.99	9.00	27.00	75.00	.87
コミットメント	11.49	2.39	5.00	15.00	.64
ストレイン	6.33	1.66	2.00	10.00	.55
不良交友	4.90	2.24	3.00	12.00	.51
親への愛着	21.06	5.26	6.00	30.00	.85
学校適応感 <sup>(2)</sup>	3.42	1.14	1.00	5.00	---
学業成績 <sup>(2)</sup>	3.20	1.13	1.00	5.00	---

<sup>(1)</sup>信頼性係数: クロンバックの $\alpha$ 係数

<sup>(2)</sup>質問が1項目のため信頼性係数は示していない

Table 2

逸脱行動に対する規範意識の効果(N=432)

固定効果	モデル1(フルモデル)		モデル2		モデル3		モデル4(最適モデル)	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
レベル1(個人レベル)								
定数項	-0.958	2.280	-0.945	2.277	-0.945	2.277	-1.693 **	0.566
個人の規範意識	-0.065	0.046	-0.069	0.045	-0.069	0.045	-0.080 *	0.041
統制変数								
担任教師への愛着	-0.035	0.023	-0.032	0.023	-0.032	0.023		
学級適応感	-0.011	0.026	-0.012	0.026	-0.012	0.026		
第1回調査時の逸脱行動	2.921 ***	0.405	2.940 ***	0.407	2.940 ***	0.407	3.050 ***	0.378
学校適応感	0.283	0.187	0.269	0.186	0.269	0.186		
学業成績	0.131	0.192	0.136	0.191	0.136	0.191		
コミットメント	-0.007	0.085	0.000	0.085	0.000	0.085		
ストレイン	0.075	0.141	0.073	0.141	0.073	0.141		
不良交友	0.291 **	0.043	0.287 **	0.102	0.287 **	0.102	0.294 **	0.100
親への愛着	-0.022	0.017	-0.027	0.042	-0.027	0.042		
人口統計学的変数								
性別ダミー(0:男子 1:女子)	-0.383	0.374	-0.339	0.370	-0.339	0.370	-0.382	0.347
レベル2(学級レベル)								
学級の規範意識	0.113	0.075	0.130	0.072	0.130	0.072	0.135 *	0.069
交互作用								
学級の規範意識×個人の規範意識	0.014	0.017						
ランダム効果								
定数項(標準偏差)	0.000	0.256	0.000	0.250	0.000	0.250	0.000	0.265
学級の規範意識(標準偏差)	0.000	0.097	0.000	0.095				
モデルの適合度								
AIC <sup>(1)</sup>	280.132		278.855		276.855		267.742	
BIC <sup>(2)</sup>	345.226		339.882		333.813		296.221	

\*\*\*p<.001 \*\*p<.01 \*p<.05 (両側検定)

<sup>(1)</sup>AIC(Akaike's Information Criterion)

<sup>(2)</sup>BIC(Schwarz's Bayesian Information Criterion)

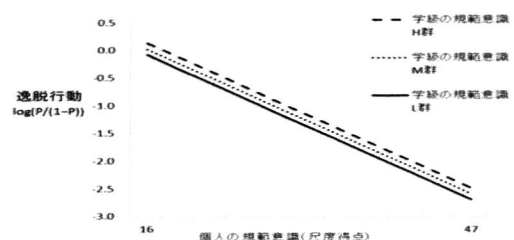


Figure1 逸脱行動に対する学級と個人の規範意識の関係

主任指導教員 遊間義一  
指導教員 遊間義一